

沖縄作戦に於ける歩兵第22連隊史実史料

昭和22年3月25日

第32軍残務整理部

第1 部隊履歴の概要

- | | | |
|----|------------|--|
| 1. | 昭和19年7月6日 | 動員下令 |
| 1. | 7月10日 | 動員完結 |
| 1. | 7月14日 | 満州国東安省西東安出發 |
| 1. | 7月18日 | 博多上陸 熊本到着 |
| 1. | 8月7日 | 沖縄本島那覇港上陸 |
| 1. | 8月11日 | 中頭郡茶谷村屋良久得到着 |
| 1. | 自 8月11日 | |
| | 至11月30日 | 右地区に於ける障地構築並びに防衛 |
| 1. | 12月10日 | 島尻郡小祿地区転進のため屋良久得出発 |
| 1. | 12月11日 | 島尻郡小祿到着 同日より同地区の障地構築並びに防衛 |
| 1. | 昭和20年3月23日 | 沖縄一帯に対する敵機の爆撃開始
甲号戦備下令同日を以って戦闘配備完了す |
| 1. | 6月22日 | 連隊長戦死 |
| 1. | 6月24日 | 師団司令部に於て師団長自ら軍旗を焼却す |

第2 歩兵第22連隊戦闘経過の概要

自 昭和20.3.23

至 昭和20.6.22

戦闘配備左記要図の如し

- 4月12日 夜石兵团（第62師団以下同じ）の指揮下に入り首里周辺集結のため小祿を出発す
- 4月12日 首里弁ヶ岳周辺に集結を概完了せるも各隊の掌握意の如くならず
- 4月12日 首里地区防備隊たる石兵团独立歩兵第22大隊（長磯崎中佐）

- の任務を継承独立歩兵第27大隊（長有働少佐）防衛築城隊などを指揮下に入りらしめられ在与那原戦車隊と協同し連携を保ち運玉森を占領陣地を構築
4. 4月13日 大隊長指揮する中隊基幹の部隊（所要の重火器を含む）を差し出すべき命を受け第2大隊（長平野少佐JA属6及1/4MQ欠）を石兵团独立歩兵第11（12?）大隊（長賀谷中佐）に配属す同月同日首里出発す
 5. 4月13日 大隊長の指揮する2中隊基幹の部隊（所要の重火器を含む）を差し出すべき命を受け、第3大隊（長田川大尉11及びMG欠）を石兵团独立歩兵第23大隊（長山本少佐）に配属す同月同日運玉森出発
 6. 此の間、着々運玉森周辺にありて陣地を強化中なり、時に艦砲射撃を受く
 7. 4月17日 山兵团（第24師団以下同じ）に復帰を命じられ直ちに宇和慶-上原-棚原の線を占領し師団主力の首里地区進出を掩護すべく命ぜらる、石兵团との作戦地境左の如し

此の時連隊長は1大隊、6、MG/2大隊、11、MG/3大隊、RiAを指揮して運玉森に在り

同時敵兵宇和慶-ウシクンダ原-150高地付近に逐次現出し石部隊は寡兵克く之と激戦中

敵戦艦らしきもの1、巡洋艦2~3、駆逐艦数隻常時中城湾内至近距離に在り主として運玉森頂上、我謝、小波津付近に対し艦砲射撃中

敵機は絶えず数10機上空に在り、運玉森連隊本部付近、砲兵陣地に対し急降下爆撃を反復しつつあり

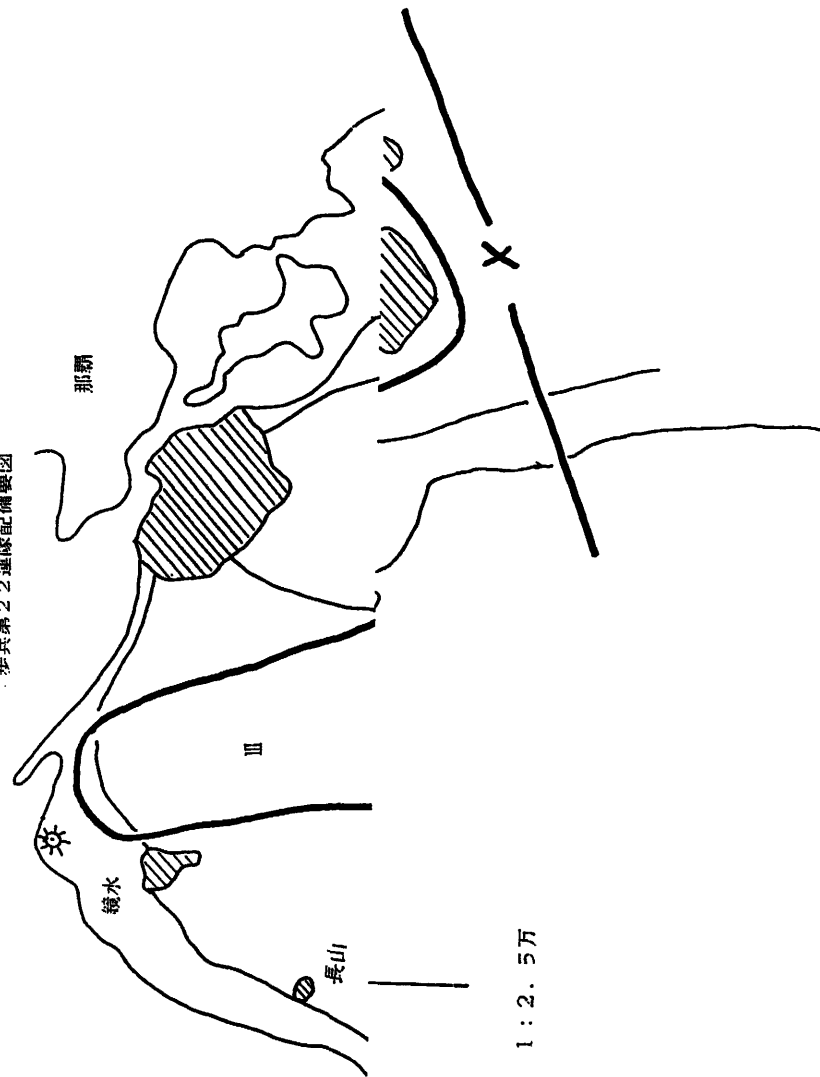
此の間連隊長は第2、第3大隊の状況に関し石兵团より何等通報に接せざるため我如古東方高地第2大隊に対し将校（本田少尉25才）を派遣第2大隊の状況に就き知り得たる所左の如し

第3大隊に関しては状況判明せず

第2大隊の状況

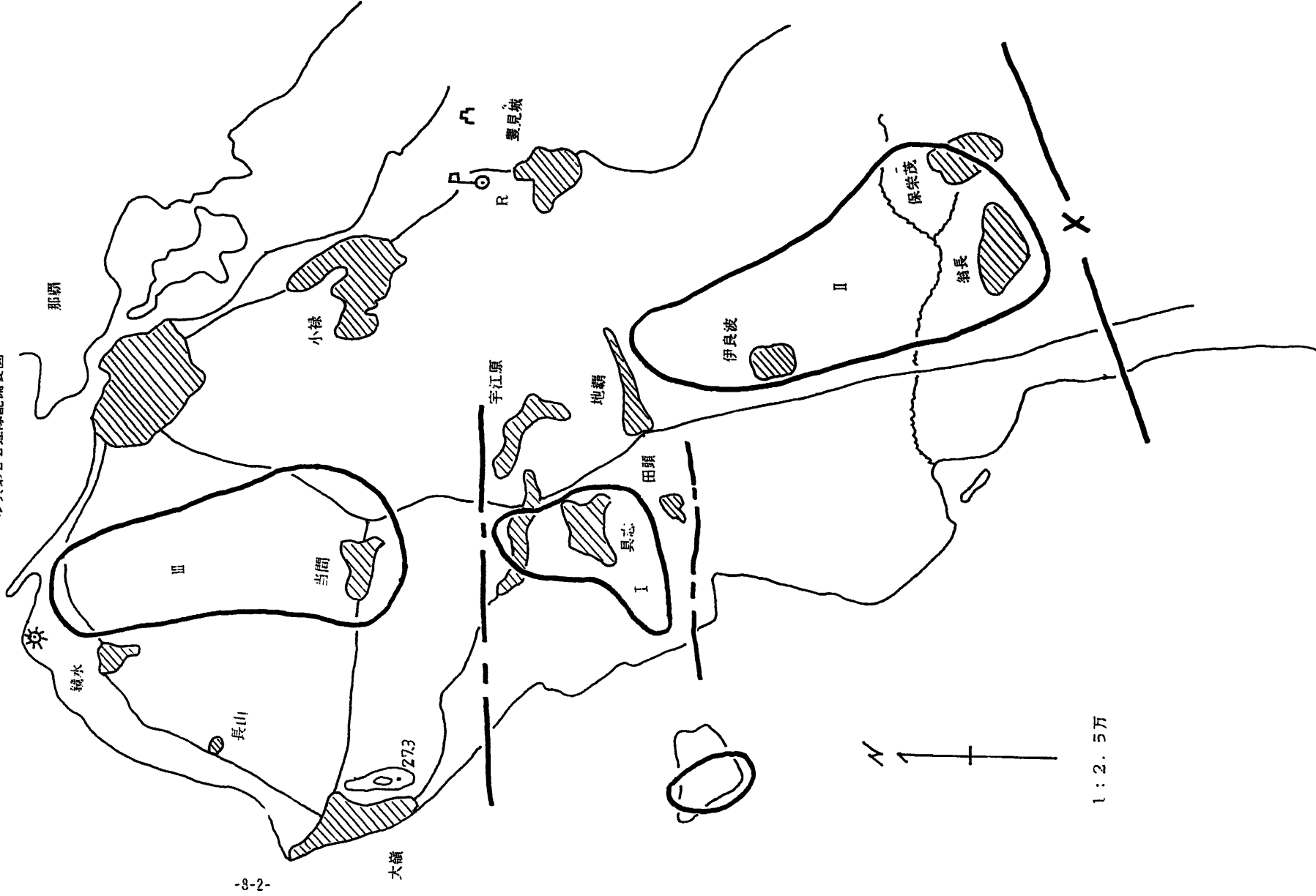
大隊は4月13日我如古東方142高地線に進出直ちに該地を占領せるも石部隊の兵力減耗し我が第2大隊のみ敵中に突出しありて三方より戦車数両ないし十数両を基幹とする部隊の猛攻を受け之と激戦中なり、敵に対し相当の損害を与えたるも我亦艦砲及び戦車砲、迫撃砲の集中砲火を受け損害続出、故に兵力の大半を失いたるも全員士気旺盛なる旨連絡あり

歩兵第22連隊出陣準備図



入
し
独
を
立
く
慶
石
を
兵
在
急
る
の
部
し
を
力

華兵第22連隊配備圖



前項命令に基く和宇慶-上原-棚原の線は其の後の実状及び連隊の意見具申に依り我謝-小波津-翁長-幸地の線に改められ4月18日150高地に対する大規模な斬り込みをもって敵の進出を妨害並びに擾乱すべき命を受く
此の時89 iの一部運玉森に進出し来る

9. 4月13日 連隊長は第1大隊に対し150高地に対する夜襲を命じ翁長部落北側谷地に前進す

此の頃師団戦闘司令部は依然として島尻郡与座に在り連絡意の如くならず、其の企図も不明にして亦其命令実状に合せずしばしば変更せられ150高地夜襲の如きは準備の余裕全く無く、無準備の儘敵情不明の150高地に対し夜襲を執行す

10. 第1大隊の夜襲は失敗に終わり此の戦闘に於て第1中隊長鈴木中尉以下数十名を失う、戦果不明

11. 此の間24師団主力は逐次首里周辺地区に進出し来たり、歩兵第22連隊(2, 3大隊、TA欠)は89 i(右)32 i(左)に連携翁長、幸地の線を確保敵の攻撃を陣前に破砕すべき命を受けたるを以て4月17日第1大隊(小原)を以て所命の線を占領せしめ連隊は再度運玉森に転進す

13. 4月25日 敵は逐次陣前に現出し来たり同日第1大隊前進陣地に於て敵の奇襲を受け戦果不明損害多大なり

14. 4月26日 朝第1大隊長陸軍少佐鶴屋義則、幸地南方高地に於て敵艦砲の直撃により戦死、連隊付陸軍大尉小城正第1大隊長に補せられ同日夜より大隊を指揮す

15. 此の頃連隊本部は弁ヶ岳に移動す

16. 4月22日頃 第2大隊は連隊に復帰連隊の左第1線となり首里飛行場東側台を占領

17. 右の陣地に対し敵は27日頃より戦車を先頭に攻撃し来たり、第1大隊及び第2大隊はこの敵と激戦力闘、5月3日頃まで連日その陣前に於て各150~200の敵を殺傷その企図を破砕せるも我が方の損害また少なからず
此の間歩兵砲中隊長陸軍中尉田中正義以下多数を失う

18. 5月4日 軍の企図せる総攻撃に当たり連隊は中突連隊となり、32 i、89 iの中央後を前進すべく命ぜられ、特に其の一部を以て翁長西側台に在

る敵を駆逐して右第1線連隊(89i)の攻撃に協力するごとく命ぜられたるを以つて第1大隊長に命じ攻撃を実施せしむ

5月4日0430砲兵の突撃支援射撃に膚接して第1(11?)中隊長木口大尉以下全員帰還せず(意味不明瞭であるが原文の儘とした)

5月3日夜連隊長は幸地南方1.5キロ第1大隊本部に前進し来れるも攻撃中止に伴い5月6日弁ヶ岳に後退

19. 爾後各大隊共に旧陣地にありて戦闘を継続せるも右第1線89i方面は総攻撃中止後全面的に敵の圧迫を受け敵は運玉森前面に進出し来たり桃原、小波津又敵の進入する所となり左第1線第2大隊方面も第1大隊との中間地区に敵溢し来たれるも各隊既に兵力激減し辛うじて其担任正面の戦闘に堪えるのみとなる、5月3日夜 独立歩兵第28大隊連隊の正面に増強せしめられ一時陣地を強化するを得たるも該部隊又数日にして壊滅的打撃を受け連隊特に第1大隊は敵中に突出孤立し現陣地の維持は困難となりつつあり

此の時迄に各大隊は既に幹部以下大部を失い兵力僅かに100名前後となる
5月5日第3中隊長川島中尉戦死

20. 此の頃第62師団より復歸せる第3大隊(長陸軍大尉田川愛介)11欠)を以つて第1大隊と交代せしめ一部戦線を後退せしめんとして各兩大隊を重畳配備せるも4月9日第1大隊及び第3大隊独立歩兵第28大隊2ヶ中隊とも敵の急襲を受け第3大隊長田川大尉殆んど全員を失う

21. 依て連隊長は新たに部隊に解体転属せしめられたる28ibns及び独立整備隊及び那覇分廠要員を第1、第2兩大隊に配属し首里北側弁ヶ嶽付近より150-140高地の線に右より第1、第3、第2大隊を配置せしめ、新たに陣地を占領せしむ、此の間作井隊及び独機等より人員及び兵器の補充を受く、

此の時に於て大隊の戦力は各大隊長以下数十名にして100名にみえず兵器弾薬の補充意の如くならず、糧まつの補充、人員の都合上殆ど不可能なり、第3大隊の如きは第10中隊長渡辺大尉以下10数名のみ

22. 5月13日頃 より敵はこの陣地に対し反復猛攻を加え来たり、各大隊共1~2の機関銃、各中隊1~2のてき弾筒及び手榴弾により連日敵の攻撃を破碎せるも我が方の損害又急増し連隊本部要員その他負傷者と謂えども後送することなく全力を竭して激闘せるも如何せんついに各大隊共1~2名の将校もし

は准士官を有するのみにして人員近々数名より20数名にして第1大隊は5月20日、第2大隊は5月19日に近く大隊本部は各々馬乗り攻撃を受けここに此の陣地は敵手に落つ、1大隊/32連隊(伊東大隊)来接し150高地の奪回を企図せるも遂に不成功に終わる

23. 此頃し重兵第24連隊ばん馬大隊(長大橋少佐)新たに弁ヶ岳付近に陣地を占領し第1大隊の全滅と共に敵を迎え激戦中なりしを以つて連隊長は新たに転属せしめられたる臼砲兵大隊長緒方少佐を長として第3大隊を編成(数10名)し以ら戦闘に参加せしめし重隊ばん馬隊を併せ指揮す

此の間第1、第2大隊長は閉塞せられたる壕より逐次奇跡的に帰還せるを以つて第2大隊を編成参加せしめ第1大隊を予備隊としてとし首里、新川付近に於て負傷者、後方部隊よりの転属者等を以つて大隊の再編成をなさしむ

24. 5月25日 軍は首里周辺に於ける陣地を撤去し島尻地区に転進、長期持久を策すべき旨の命ありたるを以つて連隊は軍の転進計画にしたがいて転進を開始す

25. 5月28日夜 連隊は山兵団の収容隊として友寄るに到着直ちに収容陣地を占領せるも左右のう波川及び稲嶺付近には予定の如く我と連携すべき部隊無きをもつて独力予定線を占領す

26. 5月31日頃 より敵は逐次追尾し来たり各大隊ともに輕戦を交えたも敵は逐次我を迂回溢しつつあり

27. 連隊は一部を残置して真壁に転進、兵団の予備となるべき命を受け6月1日夜第1大隊を志多伯に残置して転進す

28. 連隊は6月7日真壁着、師団予備隊となる

29. 第1大隊は志多伯に於て優勢なる敵の攻撃を受け善戦大いに敵の鋭鋒を挫きたるも遂に同日夕該高地に馬乗り攻撃を受け6月8日真壁に至る

30. 6月14、15日頃、師団の左翼32i正面状況急変に伴い22i主力は3大隊/32iと交代すべき命を受け1、2大隊を第1線として真米里に至る、同時まで第3大隊は89iに配属の命を受け弁ヶ岳に到る

31. 6月17、18日 執拗なる敵の攻撃を撃退せるも敵は逐次右第1線1大隊と32iとの中間に逐次進入しつつあり状況極めて険悪なり

32. 6月19日 敵は一斉に攻撃を開始し来る我が方兵器弾薬既に無く、僅か

に各隊2～3丁の小銃及び数名の兵あるのみ、加えて該地は珊瑚礁にして散兵壕すら掘開困難なる地形にして忽ち敵迫撃砲の集中射撃により殆ど全員戦死し全面的に我が陣地は突破せられ、連隊本部各大隊本部又馬乗り攻撃を受け連隊長以下殆ど全員戦死せるものの如し

33. 連隊長は之より先、佐藤准尉ほか5名をして軍旗を師団司令部に奉納せしめ師団長自ら89丁の軍旗と共に6月24日処理し奉りしと聞く、後刻師団司令部生存者砂田軍属の語る所によれば22連隊長は6月22日戦死し、軍旗護送の兵は途中4名戦死し司令部に到着せるものは2名なりしと言う、その氏名を詳にすることを不得

沖縄作戦に於ける

歩兵第32連隊史実史料

昭和22年3月25日

第32軍残務整理部

史実史料目次

第1、歩兵第32連隊履歴の概要

第2、戦闘前彼我の態勢

1. 第1期 部隊出動から沖縄本島上陸まで
2. 第2期 波具知上陸より島尻地区移駐まで
3. 第3期 島尻地区移駐より戦闘開始まで

第3、戦闘経過の概要

1. 第1期 敵侵攻初期より首里地区転進時期まで
2. 第2期 首里地区転進より5月4日攻撃時期まで
3. 第3期 5月4日攻勢時期より首里付近戦闘まで
4. 第4期 島尻地区転進の爲首里付近出発より国吉付近集結まで
5. 第5期 国吉付近陣地占領より戦闘終了まで

付表第1 戦闘間戦果の概要

付表第2 戦闘別戦死人員概数表

賞詞写